

沖縄の子どもたちが旭市を訪問



▲みんなで踊った「カチャーシ」

2月28日と3月1日の2日間、友好交流を結ぶ中城村から中城小と津覇小の5年生12人が旭市を訪れ、市内小学校の児童と交流を図りました。

28日は、宿泊場所となる飯岡荘で歓迎交流会が開かれ、昨年7月に沖縄を訪問した中央小、琴田小、干潟小の5年生20人が出迎え、久しぶりの再会を喜びました。ふれあいタイムでは、沖縄郷土芸能「エイサー」の披露や旭市クイズ、ゲームなどが行われ、予定時間をオーバーするほど盛り上がりを見せました。

翌日、沖縄の子どもたちは「ご飯の後だったけど、いっぱい食べられた」とイチゴ狩りを楽しんだ後、琴田小を訪問。全校児童の出迎えを受けた後に、5年生とクイズやゲームを楽しみました。途中、沖縄で祝いの席に踊られる「カチャーシ」を披露。「一緒に踊ろう」と呼びかけると、琴田小の児童も先生もみんな笑顔で踊っていました。

最後に子どもたちは、お楽しみだった給食を一緒に食べ、短い時間ではありましたが交流を深め合いました。



▲分かったかな、旭市クイズ

防火意識の大切さを確認

総合消防訓練

春の火災予防運動期間中の3月4日、ショッピングセンターサンモールを会場に、事業所の従業員、消防団、消防職員ら470人が参加して総合消防訓練が行われました。

この訓練は、自然災害により火災が発生した場合、どれだけ被害の軽減が図れるかと行われたもので、店内ではお客さんを誘導する避難訓練や通報訓練が、また屋外では初期消火訓練や救出・救急訓練などが行われ、参加者は防火意識の大切さを改めて確認していました。



▲はしご車による救出訓練

子どもたちがクロマツを植樹



海岸の保安林の維持管理を図ろうと、3月12日に植樹会が開かれ、富浦小の3、4年生79人が、神宮寺浜に設けられた植栽区域1,000㎡にクロマツの苗木500本を植えました。

子どもたちは、20cmほどの苗木を手には「しっかり大きくなって」と、1本ずつついでいねいに植えていました。

旭勢が大活躍

銚子カップサッカー大会

海匝地域をはじめ香取地域、山武地域、印旛地域や茨城県から16チームが参加して、第21回銚子カップサッカー大会が3月4日、銚子市豊里台運動公園で開かれました。

予選リーグと決勝トーナメントを勝ち抜いた、FCあさひと飯岡FCの決勝戦は、2対0でFCあさひが勝利しました。



▲FCあさひ



▲飯岡FC

コミュニティバスに新車両を導入



財団法人日本宝くじ協会の全額助成により、コミュニティバス用車両を2台購入しました。

この車両「宝くじ号」は37人乗りの小型路線バスで、車椅子の方の利用にも対応しており、4月1日から旭地区ルートと海上地区ルートで運行します。